

こたえ もののけ方

はってん
発展 ①

もののけ方

コップの水に食塩を入れてかきまぜると、食塩のつぶは見えなくなります。このように、ものが水にとけて、すき通った液になったものを、すいようえき水溶液といいます。

食塩は、水にいくらでもとけるのでしょうか。じつは、決まった量の水にとける量には、限りがあります。たとえば、二十度ぐらいの水五十ミリリットルには、食塩は、およそ十八グラムまでしかとけません。それ以上入れても、とけ残ってしまいます。

水の量をふやすと、とける量もふえます。また、ミョウバンは、水の温度を上げると、とける量が大きくふえます。ところが、食塩は、水の温度を上げても、とける量はほとんど変わりません。

また、ものが水にとけて見えなくなっても、なくなったわけではありません。とかす前の水とものの重さを合わせた重さと、とかした後のすいようえき水溶液の重さは、同じなのです。すいようえき水溶液から、とけているものを取り出すこともできます。ミョウバンのすいようえき水溶液を冷やすと、とけきれなくなったミョウバンが、つぶになって出てきます。

1 ものが水にとけて、すき通った液になったものを何といいますか。

すいようえき

2 食塩を、決まった量の水にたくさん入れると、どうなりますか。

とける量には限りがあるので、とけ残ってしまう。

3 水の温度を上げたとき、とける量が大きくふえるのはどちらですか。

ア 食塩

イ ミョウバン

ウ どちらもふえない

4 ものが水にとけても、なくなったわけではないと言えるのは、どうしてですか。

とかす前の重さの合計と、とかした後のすいようえき水溶液の重さが同じだから。

5 この文章の内容に合うものに、○をつけましょう。

ア 食塩は、水にいくらでもとける。

イ 水の量をふやすと、とける量もふえる。

ウ とかすと、全体の重さはへる。

おうちの方へ

- 実験の数字（およそ18グラム）は、水の温度などで少し変わります。